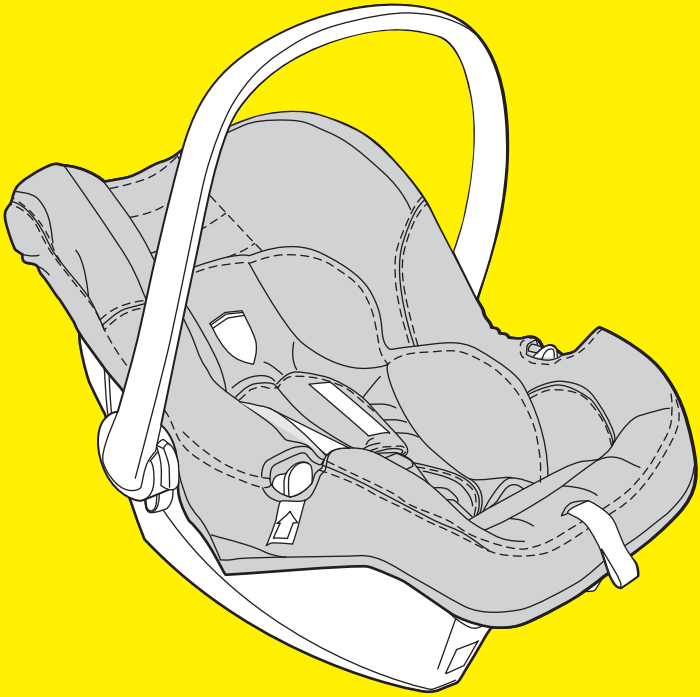
TYPE 405

体重: 0KG～1 3KG
3点式シートベルト専用



取扱説明書（保証書付）

本書は常に車検証と一緒に車内に保管してください

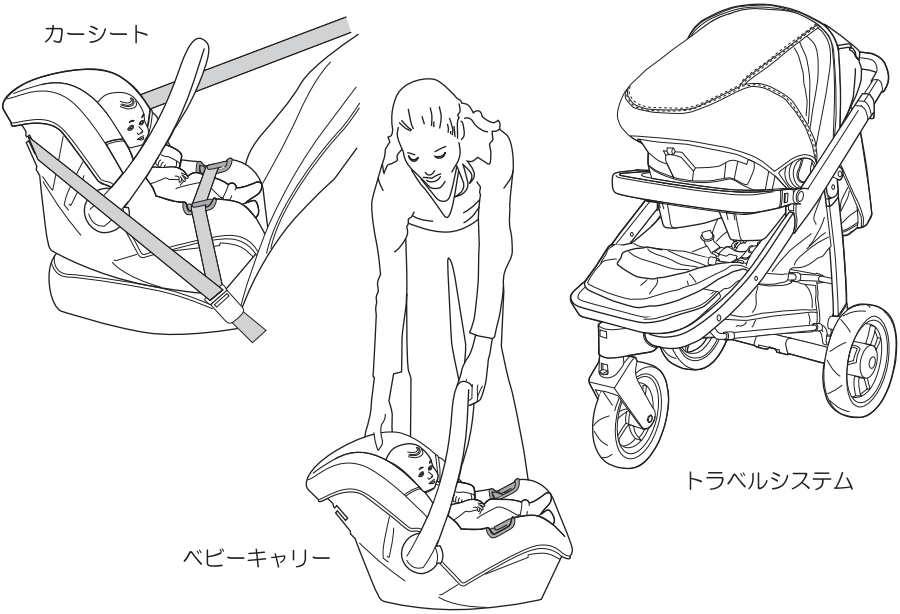
エアーバッグ装備の座席では使用しないでください。死亡または重傷を負うおそれがあります

INDEX

使用方法	2
各部名称	3
取付け方	4
正しい装着のための締付けチェック	4
取付け完成イメージ	5
取付け可能な場所	5
正しい乗せ方１	6
正しい乗せ方２	7
ハーネスの通し穴の変更	7
ワンポイントアドバイス	8～9
車のシートベルトの注意事項	9
付属品(標準装備)	10
廃棄方法	10
ストローラーへの取付け	11
ストローラーからのはずし方	11
エキスパートからのメッセージ	12
よくあるQ&A	13
注意事項	14～15
保証規定	15

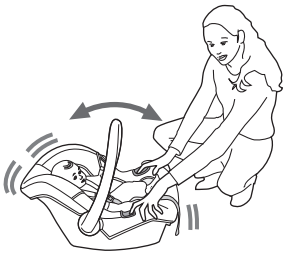
● 使用方法

新生児～１３kgまで
（本体上部２，３cm以内に頭部が収まるまで）



ベビーシートに載せる場合は車内・車外問わず、必ずお子様をハーネスでとめてください。ハーネスを使用しないと、お子様がベビーシートから転落する場合がありますのでご注意ください。

新生児～９ヶ月、９kgくらいまで
（ひとり座りできるまで）



ロッキングチェア（ゆりかご）

チェア（静止状態）

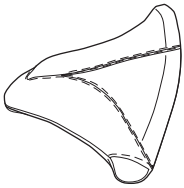
注意！

ベビーシートをテーブルや棚のような高い場所に放置しないでください。また長時間お子様をベビーシート内に放置しないでください。ベビーシートはベッドではありませんのでお子様を眠らせる目的では使用しないでください。

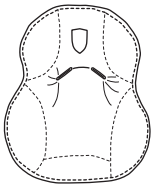
各部名称

1 キャリーハンドル
2 フード
3 インナークッション
4 ハーネス
5 ハーネススロット（通し穴）
6 肩/胸パッド
7 腰ベルトガイド
8 ハンドルリリースボタン
9 バックルアセンブリー
10 ハーネスリリースレバー（カバーの下）
11 バックルパッド(バックルの後ろ)
12 カバー
13 ベルト調整アジャスター
14 プラスティックシェル(本体)
15 肩ベルトガイド(背面)
16 取扱説明書保管場所(カバーの中)

付属品

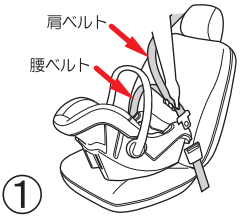


フード

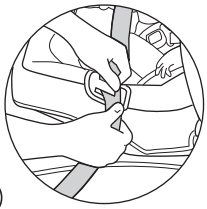


インナークッション

● 取付け方

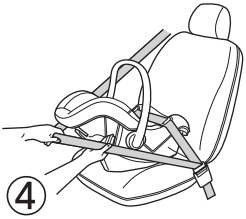


①
ベビーシート本体を座面に後向きに設置します。

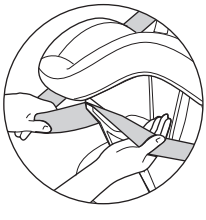


②
腰ベルトをベビーシートの上部から左右２つのベルトガイドに通します。

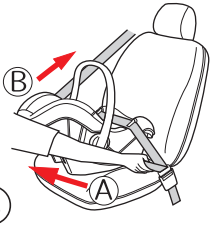
③
バックルにはめ、カチッと鳴る音を確認します。



④
肩ベルトをベビーシートの背もたれに回します。



⑤
その際、肩ベルトを背面のベルトガイドにしっかりいれます。



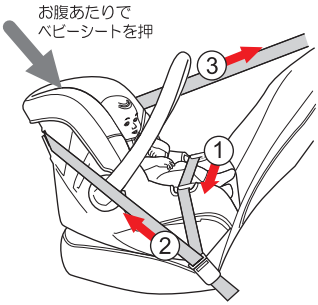
⑥
A, Bの矢印順にベルトを引きながら締付けます。

ヒント：①～⑥の手順で取付けをしても、装着がゆるい場合は、次の手順で車のシートベルトを締付け直してください。座席の背もたれと座面の付け根方向に向けて常に体重をかけ、お腹あたりでベビーシートを押しながら、締付作業を行ってください。

①バックルの反対側のベルトガイド部分からシートベルトを片手で引きながら、

②もう一方の手で、肩ベルトをベルトガイドに向かってまっすぐ強く引き上げ、たるみをとります。

③さらに肩ベルトのたるみを引き上げて、余分なシートベルトを戻します。



注意：シートベルトをはじめから全部引き出してしまうと、車によってはベルトのロックがかかってしまうのでご注意ください。国産車・アメリカ車はA/ELR式が多く、欧州車はELR式が多い。（ページ9参照）

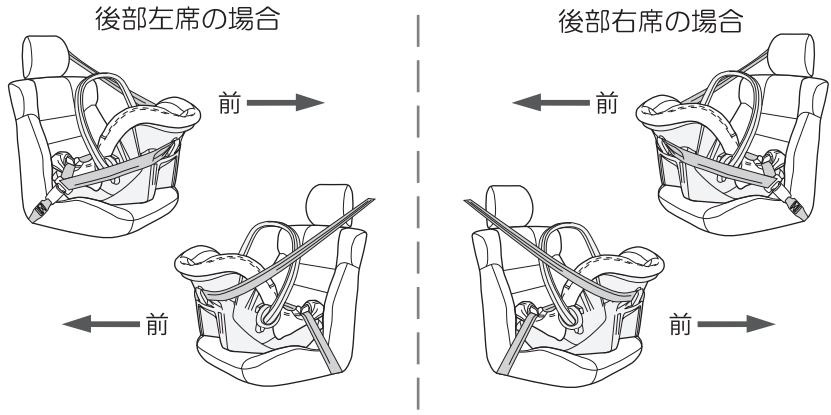
● 正しい装着のための締付けチェック

両手でベビーシートのベース部分（ちょうどハンドルの付け根あたり）を持ち、左右水平に揺らしてください。正しく締付けている場合、両手に抵抗感があるはずです。もし2.5cm以上動くようであればゆるいので、もう一度上のヒントを読み、締付けをくり返してください。

水平にゆらすと抵抗を感じるはずです。

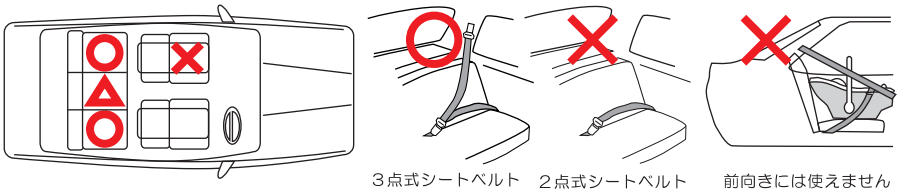
● 取付け完成イメージ

（イメージと異なる場合があります）



注意：あまりきつく締付けるとベビーシートが浮かんでしまいます。加減してください。
※新生児の背もたれ角度は必ず地面（水平）と４５度に固定します。（６ページＳＴＥＰ２参照）
※ハンドルはベビーシートの上部でロックしてください。（上図参照）

● 取付け可能な場所

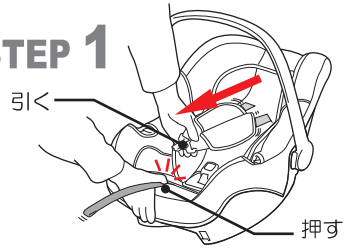


後部中央席に座らせる場合、３点式シートベルトで座席幅が40cm以上ある場合にのみ使用可能です。ただし、中央席背もたれにアームレストが装備されている場合は万一の衝突時にアームレストが開く可能性があるので、後部中央座席は3点式ベルトで座席幅が40cm以上ある場合に限り装着可能です。

注意！ エアバッグ装備の座席では使用しないでください。死亡または重傷を負うおそれがあります。

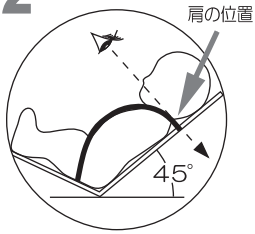
● 正しい乗せ方 1

STEP 1



① お子様を乗せやすいよう、ハーネスリリースレバー(カバーの下)を押しながら肩ハーネスを伸ばします。

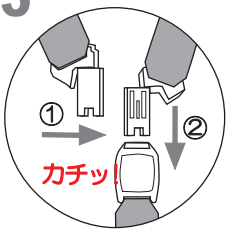
STEP 2



② お子様をおしりから乗せます。

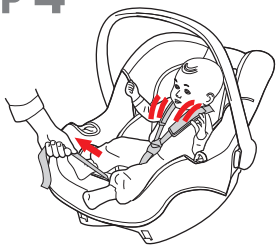
・特に首が据わるまでは必ず背もたれ角度を地面(水平)に対して４５度ぐらいにしてください。
・肩ベルトは肩の高さ、もしくは肩よりやや下の位置のスロット(通し穴)から出してください。

STEP 3



③ お子様を正しく乗せた後、お子様の両肩に左右の肩ハーネスをかけます。そして、プラスチックタングを左右重ねてバックルにはめます。(カチッと音がします)

STEP 4



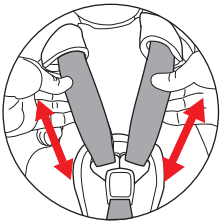
④ 調整ベルトを上向きに引っ張って肩ハーネスを締めます。

注意:お子様の首がすわるまでなるべく保護者が後部座席でお子様の様子をモニターすることをお薦めします。

⚠ 厚着の場合、衝突時にシートベルトとお子様の間に衣服の圧縮分の隙間ができ、危険を及ぼす場合があるので、薄着で乗せてください。(コート、ブランケットはハーネスをとめた上に掛けましょう)

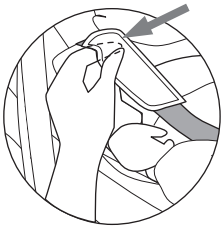
● 正しい乗せ方 2

STEP 5



⑤ 左右の肩ベルトをしっかり持ち左右交互に動かして締付けてください。左右の締付けが均等であることを確認してください。

STEP 6

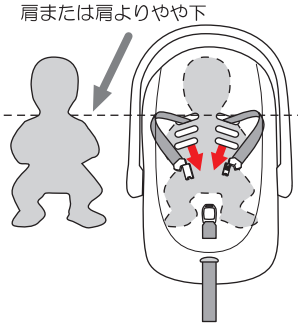


⑥ 締付け目安・・・・・

指一本が肩ハーネスと鎖骨の間に入るくらい。ゆるい場合はSTEP４、STEP５を繰り返してください。

● ハーネス通し穴の変更

新生児の場合、一番下のスロット（通し穴）をご使用ください。お子様の成長に合わせてハーネスの位置を上げてください。ハーネスは６ページSTEP２にあるように、お子様の肩の高さまたは肩よりやや下の位置を使用してください。



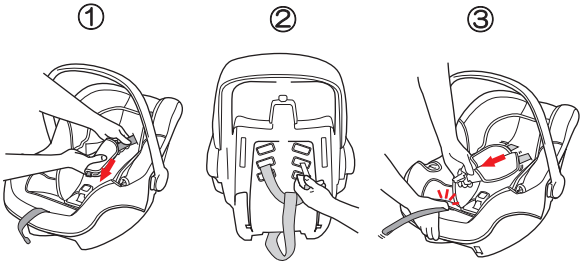
調整方法：

①肩パッドとインナークッションをはずします。

②ベビーシート背面のカバーをはずし、左右どちらかのハーネスを引抜き、高い位置に移動します。もう一方のハーネスについても同様の作業をします。最後にインナークッションとショルダーパットをつけます。

注意：インナークッションをとりはずす目安は体重6~7kgです。お子様が成長して窮屈になったらはずしてください。

③ハーネスにねじれがないか、スムーズに長さ調整が可能かを確認し、バックルにはめてください。



● 赤ちゃんのためのワンポイントアドバイス

赤ちゃん特に新生児はなるべく車に乗せないことです。しかし車に乗せなければならない場合があります。その場合の重要なポイントをいくつか挙げます。

1．新生児は後向き45度で。

新生児の骨組みはまだ大人のようにしっかりしていません。首がすわっていないという表現がありますが、そのためです。ベビーシートは必ず地面（水平）に対して背もたれの角度を45度くらいにしてください。（６ページSTEP２参照）もし45度以上倒してしまうと、衝突時、赤ちゃんが飛び出す危険がありますので倒しすぎないでください。

2．遠乗りは避けて。

休憩なしの遠乗りは避けてください。車内では小まめに赤ちゃんの様子をチェックできるように、必ず保護者がベビーシートの隣に座って、モニターしてください。いつもと様子が変わらないか観てあげてください。絶対に無理は禁物です。はっきりと言葉で自分の気持ちを表現できない赤ちゃんですので、特に暑さの厳しい季節には汗のかき具合等を観て、必ず車を停車しての着替えや水分補給を多くし、涼むための休憩をいつもより頻繁に、十分にとってください。

3．車内の整理整頓を。

車内には思いがけずに衝突時に危険なものがあるかもしれません。もしかしたら子どもの三輪車、ピクニック用のテントやビン類、お父さんの工具など放置されていませんか？このようなものは必ずトランクにいれるようにしてください。あるいはネットをかけるなど飛ばないようにしておいてください。またよくベビーシートのハンドルにおもちゃをぶらさげているのを見ますが、衝突時に赤ちゃんに怪我を負わせることになりかねません。ぜひ車内にある物の状態をチェックしてください。常に万一の衝突に備えていただきたいのです。

4．ベビーシートを正しく使用していても怪我をします。

衝突の怖さを知っている方は少ないかもしれません。ベビーシートを使っていれば安全だと思っていらっしゃる方が大変に多いようです。実際はベビーシートを使用しても赤ちゃんは怪我をします。本当に正しく装着されていても万一の衝突時には時速50kmのスピードでも1.5mの高さからコンクリートの上に落とすくらいの衝撃が瞬時に赤ちゃんにかかります。もしベビーシートがない場合には4階から落ちたくらいの衝撃がかかることとなります。ベビーシートは死亡するような事故・重傷を負うような事故から赤ちゃんを守るために使用するものだと考えてください。シートが正しく装着されていれば事故死亡率は4分の１になり、怪我については2分の１になるというデータがあります。**ChildseatSafety.com**の調査データによりますと90％以上がゆるい装着状態で使用しており、大半の赤ちゃんが正しくハーネスで守られていません。正しい装着というのは、目安としてベビーシートを固定している車の腰ベルトがぴんと張っている状態です。ベビーシートの腰ベルトガイドを両手で持って水平に揺らすと抵抗があるはずです。（４ページ下図参照）また赤ちゃんの正しい拘束とは、ベビーシートのハーネスが赤ちゃんの体にぴったりとついている状態です。目安として鎖骨とハーネスの間に指1本入るくらい締付けます。（7ページSTEP6参照）赤ちゃんは泣くかもしれませんが、慣れるはずです。きつすぎる場合はもちろん少しだけハーネスを緩めて様子をみてください。

5．室内で慣らしてみましょう。

ベビーシートを車に装着して赤ちゃんを乗せる前に、お部屋の中でシートの中に赤ちゃん

を乗せて様子を観察してみてください。赤ちゃんもベビーシートに慣れる時間が必要かもしれません。急にいつもと違う場所に入れられたら、赤ちゃんも不安になるでしょう。赤ちゃんがとても泣くようなことがあっても、お父さん・お母さんは赤ちゃんのためだという意識を持って、根気強く、妥協せずに慣れるまで様子を見てください。

6．ベビーシートに乗せる時は薄着で。

夏季は、汗をとるために1-2mmのタオル・ガーゼなどは背中に敷いてだいじょうぶです。また日よけのためでも走行中はフードを上げないでください。（10ページ説明参照）冬季は、いくら寒くても赤ちゃんの服装は部屋着（薄着）でベビーシートに乗せてください。コート・ブランケットはハーネスをしめた上から掛けてください。厚着のままハーネスをしめると、衝突時には衣類は圧縮して、その分隙間があき、赤ちゃんがシートから飛び出す危険があります。

7．赤ちゃんだからと油断しないで。

赤ちゃんはどんどん活発に体を動かすようになります。ベビーシートをテーブルなど高い場所に放置しないでください。落下したら危険です。またベビーシートをキャリーで使用する時にお母さんがバランスをくずしたために、赤ちゃんが落下してしまうような事故はあってはなりません。ベビーシートに赤ちゃんを乗せる時は、車内・車外問わず、必ずハーネスでしっかりとめてください。繰り返しますが、お父さん・お母さんのちょっとした油断が事故を招きます。絶対にこのくらいならだいじょうぶという安易な妥協はしないでください。

● 車のシートベルトの注意事項

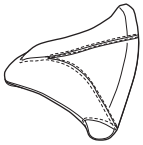
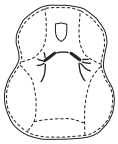
※シートベルトの種類によって取付けできない場合があります。

ご使用のお車のオーナーズマニュアル、ならびに下記表を参照の上ご確認ください。

シートベルトの種類	特徴	取付けにあたっての注意
ＥＬＲ付シートベルト	通常時はベルトの長さ調整が自由にでき、ベルトに瞬間的に大きな力が加わったときに長さの調整がロックする機構をもったもの。	取扱説明書に従って、取付けを行ってください。
Ａ－ＥＬＲ付シートベルト（チャイルドシート固定機能付）	ＥＬＲの機能に加えて、ベルトを最大に引き出すことでベルトの長さ調整機構がロックされ、巻き戻す方向のみ調整できる機構をもったもの。	本製品取付け後にシートベルトのロック機能を作動させてください。
ＡＬＲ付シートベルト	一度ベルトを引き出したところまででシートベルトの長さ調整機構がロックされ、ベルトを巻き戻す方向のみ調整できる機構をもったもの。	取付けに必要な長さを引き出し、本製品の取付けを行います。
マニュアル式シートベルト	車体側にシートベルトを格納する機能が無く、ベルト全長が露出しているもの。	取付けに必要な長さを引き出し、本製品の取付けを行います。
オートマティック式シートベルト	ドアの開閉で自動的にシートベルトが装着されるもの。	本製品を固定することが出来ないため、使用できません。

ご使用のお車のシートベルトの種類が不明の場合は各自動車メーカーにお問合わせください。

● 付属品（標準装備）

	フード：フードはロックしない設計です。緊急時には素早く取りはずせます。 装着方法：フードの両脇にあるプラスティック金具をベビーシートの両脇の隙間に差し込んでください。 使用上の注意：万一の衝突時にフードがお子様に危害を加えないように、また緊急時にお子様を救出する妨げとならないように走行中は必ず閉じた状態、または取り外すことをおすすめします。
	インナークッション：インナークッションは新生児用です。お子様の成長に合わせてとりはずしてください。とりはずす目安は体重６－７kgです。お子様が成長し、肩ハーネスを上の位置に移動する時期に、インナークッションがまだ必要かどうかを確認してください。

● 廃棄方法

・お住まいの各自治体の指示に従い、処分、廃棄してください。（できるだけカバーなどの付属品は取外して本体プラスティック部のみで廃棄することをおすすめします）
・事故による処分の場合、本品に「事故品」等記入し、「再使用不可」である旨必ず明記ください。また車のシートベルトを自動車ディーラー等で点検することをおすすめします

MEMO

MEMO

● チャイルドシート・エキスパートからのメッセージ

なぜチャイルドシートが必要なのか？

2000年にチャイルドシート着用が義務法制化されて、日本でもようやくチャイルドシートという言葉が一般に浸透してきました。法制化により1点減点されるからという危機感からチャイルドシートを購入なさった方も多いのではないでしょうか。しかし、その考え方は根本的に間違っていることはおわかりでしょうか。『チャイルドシートをなぜ使うのか？』という質問の答えは『減点されるから』ではなく、『車内の子どもの安全を考えるから』でなければならないのです。

衝突の恐ろしさを知ってください。

法制化されたにも関わらず、相変わらず『硬いシートに縛り付けてはかわいそう』『赤ちゃんが嫌がるから』『面倒くさいから』『ほんのちょっとの距離だから』と赤ちゃんを抱っこしたまま乗車しているお母さんがいますが、これは大きな間違いです。時速50kmの衝突時には赤ちゃんも体重の30倍の重さになります。10kgの赤ちゃんが突然300kgになったとしたら、お母さんの腕の力で支えられるわけがありません。

正しい装着は正しいチャイルドシート選びから。

万一の衝突時、車内での子どもの命を守る唯一の道具がチャイルドシートなのです。アメリカでは正しく装着していれば子どもの事故死は現在の4分の１に減少するといわれています。正しい装着をしているかどうかは子どもの命を守るために大変重要なポイントです。しかし、**ChildseatSafety.com**(CSS)の調査によると実際に正しい装着ができている車はゼロに近いのが現状です。その原因のひとつにお車と相性の良くないチャイルドシートを購入していることが挙げられます。車との相性が悪いと装着が困難になります。購入する際にご自分のお車との相性を確認していただきたいのです。できればチャイルドシートの専門家のいるお店でアドバイスを受けて購入していただくことがおすすめです。CSSデータから推察しますと、すでにチャイルドシートを使用している方も、うちは大丈夫とは思わずに、なんらかの装着エラーが存在するとまずは考えていただきたいのです。

子どもを守るにはまずは親の教育から。

お子様を守る責任はお父さん・お母さんにあります。みなさん自身が車内のお子様の安全を守るための『正しい知識』そして『正しい装着方法』を知らなければならないのです。万一のことがあってから、後悔してからでは遅いのです。どうぞ車を発進する前、お子様を守るために１００％のことをしているかどうかの確認をしてください。驚くことに、大半のお父さん・お母さんは実は『ぐらぐらしているな』『何かおかしいな』と気づいているのです。少しでも不安があるようでしたら、先延ばしにせず、すぐに解決するよう努力してください。絶対に妥協せずに車内のお子様の安全を追及してください。われわれはみなさんを応援しています。

Child Safety
特定非営利活動法人
チャイルド・セーフティ

● よくあるQ&A

Q. どうしてエアバックの前に装着してはいけないのですか？

A. エアバックは時速200km～300kmのスピードで一瞬にふくらみます。万一後向きのベビーシートをエアバック前に装着したら、エアバックにベビーシートごと赤ちゃんも飛ばされてしまいます。大変に危険なことです。絶対にエアバック前には装着しないでください。

Q. もう首が据わっているので、前向きにしていいのですか？

A. お子様によって体格が異なりますが、赤ちゃんの首が据わったら前向きにしたがるお父さん・お母さんが多いのが現状です。しかし、首が据わったからといっても、本当にしっかりと体が出来上がっているわけではありません。できるだけ長い期間、後向きで守ってあげた方がより安全です。このベビーシートは体重13kgまで使用可能です。その点ではとても長く後向きで安心してご使用いただけます。

Q. シートに使用期限はありますか？

A. 一般にチャイルドシートは５-６年が使用期限といわれています。本体はプラスティック製ですので目には見えなくても自然劣化します。新品のベビーシートを使用なさる場合は、お子様の利用期間が終わってからも使用可能期間があることになります。リサイクルとしてお知り合いに譲られるのはよいかと思います。その際には必ず購入時と同じ状態、つまり取扱説明書・付属品など一式をきちんと揃えてください。お知り合いであれば、どのように使用なさっているかもご説明できますし安心です。くれぐれも事故に遭ったシートは使用しないでください。すぐに廃棄してください。廃棄の際はなるべく分解して再使用ができないようにしてください。（廃棄方法についてはページ１０に記載）

Q. 子どもが乗るのを嫌がるのですがどうしたらよいのでしょうか？

A. 生まれてすぐにベビーシートに乗っていると、成長過程で抵抗なくチャイルドシートやブースターシートに乗るようになるはずです。自分の席という意識を自然に持つはずです。習慣になることが大変に重要なことです。嫌がるからとあきらめてはいけません。根気強く躾の一環として取り組んでください。これはお父さん・お母さんについても同様です。車の発進前に必ず装着チェックすることを習慣づけてください。一度締付けてそのままというのは間違いです。発進前の装着チェックは必ず実行してください。またご自分たちのシートベルトをいつもしっかりと着けることもお子様へのお手本として重要なことです。

Q. チャイルドシートはいつまで必要なのでしょうか？

A. 法律では6歳未満のお子様への着用が義務付けられています。ただし、大人と同様にシートベルトを使えるようになるまではチャイドシートは必要です。シートベルトは身長140cm～150cmくらいの大人をモデルに設計されています。目安としてこの身長になるまではチャイルドシート・ブースターシートなどを必ず使用してお子様を守ってください。ただし、よく見かけるのは小さすぎるお子様をブースタータイプのシートに座らせているものです。体格に合っていなければ衝突時にお子様を守れません。逆に危険なこともありますので絶対に注意してください。チャイルドシートはどのようなタイプでも使用していれば使用しないよりは良いという理屈は通りません。

● 注意事項

・お子様を一人車内またはシート内に残さないでください
・必ず車のシートベルトで装着してください（ベルト、ロープ等では装着不可）
・事故や落下など、強い衝撃を受けた場合は使用を中止してください
・車内ではお子様が乗っていない時も必ず本体を車に固定してください
・お子様の為に長時間の連続運転は控えましょう
・本品を改造して使用することはできません
・障害を与える可能性のある荷物などはしっかり固定してください
・カバーを外したままの使用（プラスティック本体のみ）はできません
・片側スライドドア車では使用位置に注意してください（ドア側への装着は後部席からの緊急時の脱出の妨げになることがあります）
・座席のリクライニングはできるだけ起こして使用ください
・本革シート座席に取付けをすると取付け跡が残ることがあります
・車のオーナーズマニュアルを併せて読んでください
・取扱説明書は常に車検証と一緒に車内に保管してください
・使用中、お子様から目を離さないでください
・新生児の場合は運転手以外に同乗者が乗り、目を離さないでください
・安全を考えて、使用中は必ずお子様を肩ハーネスできちんと固定してください
・使用前に必ずハンドルが指定位置で正確に固定されているか確認してください（２ページ図参照）
・発進前に必ず装着確認をし、走行中の取付け操作は行わないでください
・車のシートベルトはチャイルドシートの指定位置に必ず正しく通してください
・シートベルトはねじれのないよう確認してください
・安定、安全の為に車のシートとチャイルドシートの間に隙間を作らないでください
・車のシートとチャイルドシートの間に物（座布団・本等）をはさまないでください
・ロッキングチェアまたはチェアで使用する場合は高い場所に置くことは危険です
・キャリーにした場合、本体を持ったまま走ったり振り回したりしないでください
・キャリーにした場合、安全に持ち運べる方以外は使用しないでください
・トラベルシステムにした場合、必ず両手でハンドル操作を行ってください
・直射日光による車内温度の上昇は危険です。チャイルドシートを使用しないで車内に放置する場合はカバーすることをおすすめします（特に固定・接続部位など火傷をさける為）
・ご購入時の箱、袋等で小さなお子様を遊ばせないでください
・お子様の安全の為にも、使用方法をきちんと守ってください

●お手入れ方法

・カバーはすべて取り外せます
・アイロン、洗濯機、乾燥機は使用しないでください
・石鹸水をしめらせたスポンジ等で拭く、もしくは30度以下の液温で手洗いしてください
・中性洗剤、漂白剤等は使用しないでください

●保管場所

・市販の袋等をかぶせて、直射日光の当たらない涼しい場所
・お子様の手の届かない場所

● 注意事項

●取付け出来ない座席

・フロントエアバッグ装備座席
・車の進行方向に対して、横向き及び後向き座席
・3点式シートベルト以外の座席
・シートベルトに損傷のある座席
・シートベルトの短い座席
・オートマティックシートベルト（パッシブシートベルト）の座席
・3点式シートベルトで、上下とも巻取り式の座席
・助手席、前部中央席、補助座席及び幼児専用座席
・座面の凸凹が極端な座席
・クッションが極端にやわらかい座席
・取付け時、運転に支障を及ぼす座席（前部中央席など）
・市販のスポーツシート（極端なバケットタイプ）
・タングストッパーが高い位置にある、もしくは本体と干渉のあるもの
・バックル位置が背もたれから10cm以上の座席
・バックル位置が座部から10cm以上の座席
・座席の奥行きが40cm未満の座席

● 保証規定

1. 一度ご使用になった製品は、原則として交換できません
2. 保証期間内（ご購入日より一年間）に正常な使用状態において、万一故障した場合には無料で修理いたします
3. 保証期間内でも次のような場合には有料修理・有料交換になります
   a）プラスチック部品の自然劣化による変色
   b）本体シート、カバー等の縫製部品の汚れや損傷
   c）お客様の誤使用、不当な修理や改造による故障及び損傷
   d）ご購入後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
   e）火災、地震、水害、落雷その他の天災地変による故障及び損傷
   f）本書と販売店の領収書（ご購入日記載のもの）がない場合
   g）本書のご提示がない場合
   h）一般家庭以外で、業務用やレンタル等でご使用され故障した場合
   i）有料修理の場合に要する運賃などの諸経費
4. 衝突事故など、一度でも強い衝撃を受けた製品の修理はできません
5. 製造中止後の製品については必要部品の在庫がなくなった場合、修理できないことがあります
6. 本書は日本国内においてのみ有効です

※ 本書は再発行いたしませんので、ご購入の領収書(ご購入日記載のもの)と一緒に大切に保管してください
※ 保証は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです

モデル名　：TYPE 405
商品サイズ：約69×45×15.7cm
（ハンドルをたてた時の高さ56.2cm）
重量：　約3kg
適応体重：　新生児～13kg
安全基準：　ECE44/04
材質：　本体/プラスチック
ファブリック/ポリエステル